

両親の喫煙が子供の体及び心の健康に及ぼす影響について
(分担研究:居住環境と子どもの健康に関する研究)

永田憲行 松田一郎²

要約：母親、父親の喫煙が及ぼす子供のからだ、心の健康問題について調査した。今までの報告と同じように喘息をはじめとする呼吸器疾患、鼻咽頭等への急性刺激症状に有意の関連がみられた。一方喫煙は心の問題にも影響があり、特に母親の喫煙は、「情緒不安定」等の問題行動と強い関連がみられた。今後、心の健康に及ぼす喫煙の影響を詳細に検討したい。

見出し語：喫煙、受動喫煙、問題行動

【目的】喫煙の健康に及ぼす影響は、喫煙者自身のみならず、副流煙によって、周囲の非喫煙者の健康にも影響を及ぼしていることが明らかにされてきている。

一方、女性の喫煙、特に、生殖年齢にあたる20歳代の喫煙率は急激な上昇を示している。そこで、母親の喫煙や、家族の喫煙が、子どもの体や心の健康にどのように影響しているかを調査し検討を加えた。

【方法】対象：平成4年12月1日～12月18日の間に、水俣市立総合医療センター小児科を受診し、アンケートに回答のあった子ども200名（男106名、女

94名）調査方法、内容：質問紙法を用い、選択及び記入形式とした。内容は、家族の喫煙状況及び喫煙場所、換気状況、タバコの誤飲、子どもの健康状態、子どもの問題行動についてである。統計学的手法は χ^2 検定、オッズ比、林式数量化2類を用いた。

【結果及び考察】妊娠前喫煙していた母親は19名（9.5%）、妊娠中喫煙していた母親は8名（4.0%）、現在喫煙している母親は15名（7.5%）であった。母親が妊娠中喫煙していた父親は114名（57.0%）、現在も喫煙している父親は102名（51.0%）であった。その他の家族の喫煙は15名であり、そ

1：熊本大学教育学部 (Faculty of Education, Kumamoto Univ.)

2：熊本大学医学部小児科 (Dep. of Pediatrics, Kumamoto Univ.)

の結果、現在家庭内受動喫煙の影響下にある子どもは 200名中 115名 (57.5%) であった。

喫煙は、気管支喘息、気管支炎等の呼吸器疾患、目やのどなどへの急性刺激症状に有意の関連がみられた。特に、母親の現在の喫煙は、検討した全ての症状に有意差がみられ、父親や他の同居家族の喫煙よりも、子どもの健康への影響は強いと考えられた。

喫煙は、体の健康のみならず、心の健康にも影響を及ぼしていた。表1に示すように母親の現在の喫煙は、3歳以上の子供で、「情緒不安定」、「集団の中でよくない行動をする」(p<0.001)、「ひとの活動を妨害する」(p<0.01)、「注意を素直に聞かない」、「気性が激しい」(p<0.05)とい

う項目に有意差が、父親の現在の喫煙では、「ひとの活動を妨害する」という項目に有意差がみられた(p<0.05)。「情緒不安定」について数量化2類でも偏相関係数は母親の喫煙が最も大きく、判別の中率は88.5%であった。母親の喫煙が子供の問題行動を引き起こす原因として、母親との Relationship・・・女性喫煙者の性格は、神経症的、情緒不安定等の特性を持つといわれている。喫煙による胎児期の脳発達の障害などが考えられた。今後、調査人数を増やして受動喫煙と子供のこころの健康問題との関連を追求していきたい。

研究協力者 水俣総合医療センター小児科

菅 博明、谷山昌彦、緒方敬之

父母の喫煙状況と子どものおこころの問題 (3歳以上) N=96

	母親		父親	
	妊娠中あり	現在あり	母妊娠中あり	現在あり
A) 心理的障害				
情緒不安定の徴候		***		
注意を素直に聞かない		*		
欲求不満をうまく処理できない				
B) 暴力及び破壊的行動				
集団の中でよくない行動をする		***		
おどしたり暴力を加える			*	
気性が激しくかんしゃくもち		*		
C) 反社会的行動				
ひとの活動を妨害する		**		*
D) 過動傾向				
E) 反抗的行動				
決まりを無視する				

*** : p<0.001

** : p<0.01

* : p<0.05



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:母親、父親の喫煙が及ぼす子供のからだ、心の健康問題について調査した。今までの報告と同じように喘息をはじめとする呼吸器疾患、鼻咽頭等への急性刺激症状に有意の関連がみられた。一方喫煙は心の問題にも影響があり、特に母親の喫煙は、「情緒不安定」等の問題行動と強い関連がみられた。今後、心の健康に及ぼす喫煙の影響を詳細に検討したい。